

日本にいるコイ科のタナゴの仲間は 18 種類。 定着した外来種(亜種)を含め、4 属 12 種 9 亜種。

コイ科のタナゴの仲間は大きく分けて 3~4 に分類されています。手賀沼で確認されているもの。

タナゴ属 ゼニタナゴ、タナゴ、カネヒラ、オオタナゴ、イチモンジタナゴ、イタセンパラ、
タビラ(種) アカヒレタビラ、シロヒレタビラ、ミナミアカヒレタビラ、キタノアカヒレタビラ、セボシタビラ。



ゼニタナゴ 全長 7~9 cm 国:絶滅危惧 IA 類(CR) 干:X 消息不明 繁殖期は 9~11 月。
国の絶滅危惧 IA(CR)に指定され、2016 年現在、野生種の生息が確認されているのは、宮城、秋田、岩手の 3 県。福島県の生息地は、東日本大震災以降、絶滅したのではないかとわれています。手賀沼では昭和 20 年代後半までタナゴ類で最も多く生息していたようです。味はにがみが強くニガビタと呼ばれ、畑の肥料としても使われていました。絶滅の要因は水質や水辺環境の悪化により産卵母体の二枚貝が減少したことや、産卵母体をめぐり、産卵期が長いタイリクバラタナゴとの競合に勝てなかったことが考えられます。2015 年から NEC と手賀沼水生生物研究会は、琵琶湖博物館で継体飼育されている利根川水系産の関東水系では絶滅したゼニタナゴを分譲してもらい、野生復帰事業に取り組んでいます。



タナゴ 全長 6~10 cm 国:絶滅危惧 IB 類(EN) 干:A 最重要保護生物 繁殖期は 4~6 月
マタナゴとも呼ばれています。タナゴの仲間の中では体高が低く、口ひげがあります。



アカヒレタビラ 全長 7~9cm 国:絶滅危惧 IB 類(EN) 干: B 重要保護生物
タナゴとアカヒレタビラとともに手賀沼では絶滅状態であり、仮に見られたとしても釣り人の放流ものの可能性があります。近年アカヒレタビラは、キタノアカヒレタビラ、ミナミアカヒレタビラに分類分けされています。

カネヒラ 全長 12~15cm 国内移入種 繁殖期は 9~11 月。日本に生息するタナゴ類では最も大型の種ですが、釣り人の違法放流により、手賀沼でも最近では少数ですが、定着しています。



オオタナゴ 全長 10~20 cm 国外移入種 国:特定外来生物 その他の総合対策外来種
中国大陸原産です。霞ヶ浦などで帰化定着していることが確認され、最近では手賀沼でも見られるようになり問題になっています。体形はひらべったく、体高が高く、胸ビレ近くに星形の模様があります。繁殖期は 4~7 月。2016 年 10 月 1 日、特定外来生物に指定されました。

特定外来生物について 外来生物法により生態系、人の生命、農林水産物への被害が及ぼすものに指定された種。指定されると飼育、栽培、保管、運搬、輸入、野外へ放つなどが禁止されます。違反すると個人の場合、最高で 3 年以下の懲役、300 万円以下、法人の場合、1 億円の罰金が科せられる場合があります。

アブラボテ属 ヤリタナゴ、アブラボテ、Pseudorhodeus 属 ミヤコタナゴ



ヤリタナゴ 全長 10cm 国:準絶滅危惧 (NT) 干:C 要保護生物 繁殖期は 3~8 月。
日本のタナゴの中で一番広い分布域を持つ魚です。一対(2 本)のひげがあります。繁殖期は春から夏でオスの婚姻色は色鮮やかです。手賀沼ではほとんど見ることが出来ませんが、流域ではまだ見ることができます。



ミヤコタナゴ 全長 6cm 国:絶滅危惧 IA 類(CR) 干:A 最重要保護生物 繁殖期は 3 月中旬~7 月中旬
手賀沼流域でも昭和(初期~中期)まで生息したと言われていますが、確かな資料が見つからないのが残念です。1974 年に国の天然記念物に指定されました。ミヤコタナゴは、関東地方の固有種で、現在生息地が残されているのは千葉県と栃木県だけです。平成 6 年(1994 年)には種の保存法により国内希少野生動物種に指定されています。一対の口ひげがあり、産卵期に現れるオスの美しい婚姻色で知られています。谷津の最上流域が生息域とされ湧水性を好みます。産卵母体は主にツツカサガイなどの二枚貝になります。西日本に分布するアブラボテは、本種と形態、生態とも似ていると言われています。ミヤコタナゴは分類上、アブラボテ属に近い扱いです。

バラタナゴ属 バラタナゴ(種) ニッポンバラタナゴ、タイリクバラタナゴ、 スイゲンゼニタナゴ(種) スイゲンゼニタナゴ、カゼトゲタナゴ、



タイリクバラタナゴ 体長 6~8cm 国外移入種 国:重点対策外来生物 繁殖期は 3~10 月。
オカメタナゴとも呼ばれています。中国大陸原産で、戦時中ソウギョにまじり関東地方に移入され、その後全国に広がりました。オスの婚姻色は色鮮やかです。タイリクバラタナゴは、繁殖期間が長いこともあり、産卵母体の二枚貝をめぐり在来タナゴ類との競合では強いと言われていて生存に大きな影響を与えています。

重点対策外来生物について 環境省、農林水産省が定めたもので、外来種について日本及び海外等での被害状況を踏まえ、日本における侵略性をリスト化したものです。甚大な被害が予想されるため、対策の必要性が高い。